

## 社長が自らの姿勢を正すことで、企業改革は始まる

一般社団法人アーネスト育成財団  
理事長 西河洋一

企業が2倍、3倍と成長しようとする時、イノベーションを起こさなくてはならないが、中小企業の多くが、技術が無い、人がいない、資金が無いとなる。

そのような中で、社長自らの行動を変えるだけで会社の収益を改善することができるヒントが『飯田語録』の中にあるので紹介したい。

『飯田語録』とは、飯田GHD創業時の飯田一男会長の残した語録のことである。語録の中に『語録 12 会社のお金は自分の体の一部であると考え、無駄なお金を使うということは、自分の手足を削ぎ取られていると考えろ』がある。

「社長が会社の経費をふんだんに使う会社は社員も真似して使うようになる。会社の金は、一銭も使わないくらいの方が良い。もし金を出すときには、自腹をきることで、余計な出費は抑えられる。会社が順調になってくると、容易に新しいものを買うようになる。ずっと貧乏性でいるというわけでないが、会社のお金は自分の体の一部と考えよ」と書かれている。

社長が「無駄を無くす」と言いながら顧客や部下との会食で会議費や交際費を使う会社を多くみる。一つひとつは、大きくはないが、社長が自腹をきることで経費は抑制されるのである。

社長が使わなければ、会社の中の同じような経費の支出も請求しにくくなる。社長も社員も会社に10万円の請求しなければ、会社は経費削減した10万円分、経常利益が増加するのである。

会社というのは、社長の方針やコンセプトでどうにでも変わるものである。全く今までと異なる会社に明日から変えることができるのだ。

「自らの行動を正せ」を社長が自ら実行することで、会社の風土を改革することができる。